

総合的な思春期・若年成人（AYA）世代のがん対策のあり方に関する研究

「岡山県における悪性腫瘍に治療に関わるスタッフにおけるがん・生殖医療への意識調査」  
「岡山を中心とした医療圏におけるがん・生殖医療連携の啓発とネットワークづくり」

研究分担者 中塚幹也 岡山大学大学院保健学研究科 教授

研究要旨：

岡山大学大学院保健学研究科において、岡山県の悪性腫瘍等の治療に従事する医療スタッフを対象とし、「悪性腫瘍等の患者の生殖機能温存に対する認知度と意識」に関する無記名自己記入式質問紙調査を実施した。

がん患者の生殖医療を考えるネットワークOKAYAMAのホームページを開設した。また、岡山県におけるがん・生殖医療連携ネットワークに関する資料、セミナーの案内などを配布し、啓発を行った。

A. 研究目的

岡山県を中心とした医療圏における地域完結型がん・生殖医療連携ネットワークの構築と、悪性腫瘍治療に関与する医療スタッフ、一般市民に対する「悪性腫瘍患者等の妊孕性温存」の啓発を行う。

B. 研究方法

【研究1】岡山大学大学院保健学研究科において、岡山県の悪性腫瘍等の治療に従事する医療スタッフを対象とし、「悪性腫瘍等の患者の生殖機能温存に対する認知度と意識」に関する無記名自己記入式質問紙調査を実施した。

【研究2】がん患者の生殖医療を考えるネットワークOKAYAMAのシステム面を整備するため、認知度を向上させるために活動を行った。

（倫理面への配慮）

岡山大学大学院保健学研究科倫理審査委員会の承認（承認番号M15-13）後、施設代表者の同意が得られた医療施設において無記名自己記入式質問紙調査を実施した。対象者に対し、研究の趣旨、プライバシー保護、調査の協力を辞退しても不利益が生じないことを書面で説明し、回収袋への投入をもって同意とした。

C. 研究結果

1. 対象の背景

18施設の1,056名に対して質問紙を配布し、797部を回収（回収率75.5%）、このうち2部を除いた795部を解析した。対象の年齢は $35.8 \pm 11.3$  (mean  $\pm$  S.D) 歳、看護師が728名（91.6%）、勤務施設は、大学病院420名（52.7%）、総合病院323名（40.5%）、複数科病院32名（4.0%）、単科病院9名（1.1%）、診療所13名（1.6%）であった。

2. 「悪性腫瘍等の患者の生殖機能温存」に関する知識・意識

悪性腫瘍等の患者が生殖機能温存を行うことが

できることを「知っている」との回答は、全体の24.6%、岡山県内に生殖機能を温存できる施設があることを「知っている」と回答したのは25.6%であった。悪性腫瘍等の患者の生殖機能温存方法の認知度としては、卵子の凍結保存は38.6%、精子の凍結保存は35.8%、受精卵（胚）の凍結保存は21.8%、卵巣組織の凍結保存は10.8%、放射線療法時の性腺遮蔽は10.6%、化学療法時のGnRHアゴニストは6.5%、放射線療法時の卵巣位置移動術は4.8%であった。悪性腫瘍等の患者が生殖機能温存を行うことに関して、全体の91.4%が「肯定的」であった。患者が子どもを持つことについて、「治療を行う励みになる」との肯定的な意見は高率であったが、「治療後の妊娠・出産は負担が大きい」「悪性腫瘍等の治療が児に及ぼす催奇形性が懸念される」「悪性腫瘍等の治療を控えた患者にとって不妊の問題は優先度が低い」との回答も見られた。

3. 悪性腫瘍等の患者における生殖機能温存の相談・支援の実態

勤務経験の中で「悪性腫瘍等で生殖機能温存の対象患者がいた」との回答は21.8%、「化学療法や放射線療法等の治療で不妊になった患者がいた」6.7%であり、多くは、「わからない」との回答であった。

「悪性腫瘍等の患者から生殖機能温存について相談を受けた」7.6%であった。また、悪性腫瘍等の治療開始時、「将来、子どもを持ちたいか確認している」との回答は14.2%、「生殖機能温存について説明している」との回答は3.1%と低率であった。

【研究2】

研究1の結果を受けて、悪性腫瘍等の治療に従事する医療スタッフや一般市民に対する広報・啓発の目的で、がん患者の生殖医療を考えるネットワークOKAYAMAのホームページを開設した。また、悪性腫瘍を治療する医師が、悪性腫瘍患者の妊孕性温存を行う生殖補助医療実施施設へ患者紹介をするための共通書式などを作成、ホームページ上からダウンロード可能とした。

さらに、岡山県におけるがん・生殖医療連携ネ

ネットワークに関する資料,セミナーの案内などを配布し,公開セミナーを開催した。

#### D. 考察

悪性腫瘍患者の生殖機能温存を目的とした配偶子凍結保存には,肯定的な意見を持つ医療スタッフが多かったが,それが,岡山県内でも可能であることを知らない実態が明らかになった。医療スタッフの中には,生殖機能温存の対象となる患者に接していたが,関心が低いことから,患者への情報提供も行われていないと考えられ,相談を受けたり支援したりしている比率は低かった。まずは,悪性腫瘍等の患者の生殖機能温存に関する知識を持ってもらう必要があると考える。

この結果をもとに,医師向け,看護スタッフ向け,一般市民向けの情報提供のために,がん患者の生殖医療を考えるネットワークOKAYAMのホームページを開設し,現在,充実させていく過程である。

また,患者紹介をするための共通書式の作成などを行ったが,さらに,妊孕性温存を希望する患者の紹介を簡略化し,時間の短縮を図る必要がある。

#### E. 結論

悪性腫瘍等の治療に従事する医療スタッフにおいて,依然として,「悪性腫瘍患者等の妊孕性温存」が可能であること,また,岡山県内でも行われており,がん・生殖医療連携ネットワークが構築されていることの認知は十分ではなかったことが明らかになった。

このため,ホームページを開設,セミナーなどの開催を行った。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) 中塚幹也:健康な女性を対象とする未受精卵子の凍結保存.産科と婦人科,2016; 83(3):291-296.
- 2) 中塚幹也.第13回日本生殖看護学会学術集会基調講演 生殖看護の射程:地域への広がり,未来への広がり.日本生殖看護学会誌,2016; 13(1):51-56.
- 3) 中塚幹也(座長).第13回日本生殖看護学会学術集会 シンポジウム 創ろう!岡山モデル,語ろう!生殖サポート.日本生殖看護学会誌,2016; 13(1):57-75.

##### 2. 学会発表

- 1) 舟橋弘晃,高山修,本橋秀之,中塚幹也:胚培養士セッション「胚培養士の育成とキャリアアップを目指して」生殖補助医療技術者の養成とスキルアップに高等教育機関が果たすべき役割.第57回日本卵子学会,新潟,2016年
- 2) 春間朋子,西條昌之,依田尚之,原賀順子,西田 傑,楠本知行,中村圭一郎,関典子,増山寿,中塚幹也,平松祐司:婦人科癌治療後における性機

能障害の検討,第58回日本婦人科腫瘍学会,米子,2016年.

3) 枝園忠彦,羽原俊宏,露無裕子,吉岡奈々子,林伸旨:薬物療法を受ける若年性乳がん患者における生殖機能温存のための乳腺科と生殖医療医のスムーズな連携を目指した取り組み.第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,神戸,2016年.

4) 安藤まり,酒本あい,樫野千明,松岡敬典,長谷川徹,早田桂,小谷早葉子,鎌田泰彦,関典子,増山寿,平松祐司,中塚幹也:子宮体癌再発に対する妊孕性温存治療後,生殖補助医療で妊娠し生児を得た一例.第52回中国四国生殖医学会総会・学術講演会,岡山,2016年.

5) 薬師地仁美,林奈央,嶋田雅子,肥後沙也子,林田桃子,宮本志織,横田泉,泉田萌杏,片岡久美恵,中塚幹也:健康な女性の卵子凍結を取り巻く社会的状況に対する意識:産婦人科施設代表者への全国調査.第57回日本母性衛生学会,東京,2016年.

6) 宮本志織,嶋田雅子,林田桃子,肥後沙也子,横田泉,薬師地仁美,林奈央,泉田萌杏,片岡久美恵,中塚幹也:悪性腫瘍の治療に関与する医療スタッフにおける生殖機能温存についての意識とその相談,支援の実態.第57回日本母性衛生学会,東京,2016年.

7) 林奈央,薬師地仁美,嶋田雅子,肥後沙也子,林田桃子,宮本志織,横田泉,泉田萌杏,片岡久美恵,中塚幹也:健康な女性の卵子凍結,そのライフプランへの影響に対する意識:一般市民への全国調査から.第57回日本母性衛生学会,東京,2016年.

8) 菊地 盤,香川則子,木村文則,村上 節,馬場 剛,齋藤 豪,鎌田泰彦,中塚幹也,古井辰郎,森重健一郎,岡本恵理,塩谷雅英,原 鐵晃,北島道夫,増崎英明,高江正道,高井 泰,鈴木 直:本邦における医学的適応による妊孕性温存目的の卵巣組織凍結保存の実態調査.第61回日本生殖医学会学術講演会,横浜,2016年.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし